

# 第42回 うつのみやこども賞だより

令和7(2025)年度 8回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

## 《今月選ばれた本》

### 『消えゆく街の秘密の友だち』

鯨井 あめ／著 itou あつき/イラスト (PHP研究所)



令和8年 1月 11日

## ～読んだ本の感想より～

- 小晴は木山さんや鈴ちゃんと仲よくできるようになるけど、新しい事、物ができると何か一つを失ってしまうこと、それがラッタッタの言っていた「大人になること」なんだと思った。私にも忘れてしまった「イマジナリーフレンド」がいたのだろうか。
- ラッタッタと木山さんのおかげで小晴が自分の心の声を聞くことができてよかった。
- イマジナリーフレンドについて、こんなに根気よく調べられることがとてもうらやましいなと思いました。
- 自分の心の助けになるものがあるということは、とても安心できることだと思いました。
- 「大人になることってなんだろう」という疑問のヒントがこの本を読んで見つかった気がした。
- 私は小晴が大人になるためには、ラッタッタとさよならしないといけないという事を知った時に、とてもざんねんな気持ちになりました。

## 『読書感想文が終わらない!』

額賀 濤／作 satsuki／絵 (ポプラ社)

- 読書感想文で悩みを解決するって今までなかった観点だったので、「すごい!」と思った。
- 所沢市立青葉台小学校に通う栄人たちの読書感想文を助けるフミちゃんはいーダー感があり、かっこよかった。
- 小学生5人それぞれのモヤモヤが読書感想文を書きながら軽くなっていくところがおもしろかったです。
- いろいろな視点から読書感想文を書いているすがたが面白かった。
- 読書感想文をどのように書けばいいのか分からない人たちにフミちゃんが教えていて、さらに読書感想文は、読んだ感想以外にも書いていいことが分かった。
- 自分の心の中にある本音を言葉にして書くことの大切さがよく分かった。

## 『不完全宣言』

林 けんじろう／著 (PHP研究所)

- 人物の性格が個性的で良い本だと思った。
- 椎菜の大切なぬいぐるみ(みっ太)探そうとわざわざ遠くまで探しに行く姿をみて、これは勇気がないといけないことだと思ったし、みっ太がどれほど大切なのがよく分かった。
- 私も香保のように、だれかのために全力をつくせるような人になりたいと思いました。
- 他の人や自分の悪い所でも、全てが個性なのだなと思った。
- 小6の香保が友達のさがしものを探しに行き、完全じゃなくてもいい、大事なものは人それぞれ、という大事なことに気付いて成長したところが良かったです。

## 『星の花』

濱野 京子／著 (静山社)

- 母、ナジェの戦争の話にぐっと引き寄せられた感じがした。
- リシュやナジェのはかない恋に感動しました。
- 昔の戦争の歴史などがとても複雑でおもしろかった。
- 最初は平和だったのに、どんどんざんこくになっていって、びっくりしました。
- リシュ・アシュの人生が読み取れる本で、とてもおもしろかった。